

## 甘利大臣による記者会見の概要

日時：平成26年10月27日（月）16：20～16：50

場所：ウェスティンホテル（豪州・シドニー）

### 【冒頭発言】

先ほどTPP閣僚会合が終了した。今回は全体会合だけでなく、かなりの時間を二国間協議に充て、市場アクセス交渉を中心に二国間で残された課題の解決に努めた。我が国も米国のフローマン代表と会談した他、今回の会合に出席している全ての閣僚と二国間の会談を行った。日米では前進があったが、引き続き課題が残されているので、今後も協議を継続するという事で一致した。

米国以外の各国とも閣僚レベルで精力的に協議を行い、多くの国と二国間協議を終結に近づけることができた。引き続き残された課題について各国と協議を行う。

ルールについては、昨日、今日と全体会合で知的財産、環境、国有企業などについて全体会合で討議した。首席交渉官が絞り込んだ論点について政治レベルで議論した。各国が宿題として持ち帰った部分もあるが、一定の進展がみられた。

閣僚会合での議論を踏まえ、首席交渉官がシドニーに残ってさらに作業するよう、閣僚が指示を出した。

今後、数週間以内に再び閣僚会合を開き、さらに交渉を前進させるということとなった。

### 【質疑応答】

（記者）

ロブ豪貿易・投資大臣が共同記者会見でやや曖昧なことを仰っていたが、TPPの首脳会合は今後、どういう形で開催されるのか。見通し如何。

（甘利大臣）

決まっていない。APEC閣僚会合が開かれるが、そのメンバーにはTPP閣僚がほとんど入っているので、そこでやろうということになった。但し、自分はAPECの閣僚ではないので、TPPの閣僚会合に出席すると言わないと国会の許可をもらえない。APEC閣僚会合と並行してTPP閣僚会合が行われるというところまでは決まっており、APEC首脳会合は予定されているが、TPP首脳会合についてはまだ決まっていない。

(記者)

ロブ豪貿易・投資大臣が共同会見時、首脳会合をいつやるか、3～4か月の間に考え始めると発言されていたが、大筋合意は年内は無理ということなのか。

(甘利大臣)

これからTPP閣僚会合がまだあるのに、今から断定的なことを申し上げるのは差し控えたい。今回のシドニーでは市場アクセスとルール、いずれも前進したことは事実である。北京のTPP閣僚会合において、あるいはその前に事務折衝が行われるわけで、この後も首席交渉官はシドニーに残るのだが、そこでどれくらい進むのか進まないのか断定はできない。年内に大筋とか基本とか基本要素とか、いろいろな表現が飛び交っているが、いろいろな表現への合意が成り立つかどうか、現時点で断定するのは時期尚早と思う。

(記者)

大臣は今回の会合前に、ルールについて遅れがみられると仰っていたが、今回の会合の声明では市場アクセスとルールについて進展がみられたということは、ルールの進展具合が市場アクセスに追いついたとお考えなのか。

また、共同会見でも触れられていたように、日米の最終決着を待ちたいと他の閣僚のご発言もあったが、最終決着に向けて日米協議が大事になると思うが、如何。

(甘利大臣)

進捗状況で言えば、依然としてルールが遅れている。それは多くの国でルールにおけるセンシティブティを抱えており、TPP12か国の経済の8割を占める日米の市場アクセス協議の見通しが見つからないと他が進められないということを(遅れていることの)説明に使っているところがある。自分の痛いところには踏み込みたくないというのはどこの国も一緒。しかし、日米がワシントン以降相当進んだということで、これはもうウカウカしてられないということになる。これからは日米の様子を見てという理屈は成り立たなくなってくる状況。そこで、ルールについても今までよりはかなり早いペースになるのではないかと思う。

(記者)

首脳会合について今回日程が決まらなかったとのことだが、大臣として閣僚会合や事務レベル協議を踏まえ、どういうところまで行けば首脳会合を開ける段階になるとお考えか。

(甘利大臣)

市場アクセスがかなり収斂に向かいつつある。市場アクセスの大所のメドがみんなつく状態になるということと、それに背中を押されてルールの大所、今日テーマになった6項目の整理がつくと、ある時点から連鎖で加速するということはあるのではないかと思う。日米協議がワシントンで物別れに終わって以降、東京、キャンベラ、シドニーとかなり進んできたので、これが全体の交渉の加速に対し相当な刺激剤になっているということだと思う。

(記者)

1月4日の米国の中間選挙の前に閣僚会合が開催されたが、今回の閣僚会合に対しいろいろな憶測があった。(本当は進んでいるのに)表向き、なかなか進んでいると言える状況ではないと思うが、逆に4日を過ぎると劇的に進む要素があるとお考えか、また、いつ頃日米交渉が妥結できるとお考えか。

(甘利大臣)

中間選挙まではステークホルダー対候補者の関係であり、なかなかセンシティブである。議席が確定すると暫くは選挙がないので、そういう意味では政治的な安定が図られると思う。その後の方がいろいろ現実的な議論はし易い環境ができるかもしれない。日米に関しては、確かに進んではきたが、日本にとって守る点攻める点両方で極めて重要な点について正念場を迎えてくる。したがって、まさに日米ガチンコのぶつかり合いになる。いかに双方とも厳しい状況であるということを理解し合い、それを踏まえて北京でどこまで前進できるかという問題であり、今から予断はできない。どちらも残されている問題は本当に国益、並びに政権として重要であり、いかに大変かをこちら主張するし、向こうもいかに国内事情がありそれが大変かということのぶつけ合いになる。その上でお互いが満足できるよう、片方だけ完全に満足しても片方が満足できないので、そこをお互いに大変かを理解し合い、その上で事務折衝、大臣折衝を北京で行っていく。その結果を見て、それが全体をどこまで後押しできるかという見通しになると思う。そこでそれから先の姿、終わりが見えてくればいいと思う。

(記者)

今朝のぶら下がり会見の際、今後の決着の見通しが見つからないと仰ったのは、日米双方が一致しているということなのか、それとも日本側が今日の会談を踏まえてそう認識しているということなのか。

(甘利大臣)

現時点で日米の物品の決着は見えていない。見えていないというのは、日本としてどうしても譲れないもの、どうしても取らなければいけないものについて議論しているのでそれだけ大変だが、今までの数の上からは決着すべき数はもちろん少なくなっているが、最後に残っているものについては譲れない度合い、取らなければならない度合いが違う。したがって、そこを考えると結着する見通しが立っていない。北京まで事務折衝、そして北京でそれを踏まえ大臣折衝を行っていく。

(記者)

日米についてガチンコになるとのことだが、米国のフローマン代表が共同会見の後、一部メディアに対し、日本もTPPに入るとき農業改革などを約束して入っているのに全然進んでおらず、今の交渉の状況から見ても十分な提案とは言えないということを書いていたようだが、どうお考えか。

(甘利大臣)

米国がそういうことを言い続ける限りはまともらないということである。

(記者)

北京の閣僚会合について、その場に各国の首脳もいるが、閣僚会合で確認した成果をその場で首脳に報告するということは想定されているのか。

(甘利大臣)

少なくとも自分は総理には閣僚会合の様子を当然報告する。首脳会合を開くという話は特にない。

(記者)

全体会合の声明に、実質的に進展したと書かれており、大臣も一定の進展が見られたとのことだが、これは方向性が出てきた分野が具体的にみられるということか。

(甘利大臣)

方向性の整理がつつあるところとまだつかないところ、一旦首席交渉官に戻して議論を行うところなど、まだら模様である。閣僚会合での6項目についてすべての整理がついたわけではない。

(記者)

先ほどの最初の質問に絡むが、ロブ豪貿易・投資大臣の発言が気になっている。首脳たちが会議を開くか開かないか、どこで開くかについて考え始めるのは3～4か月後くらいになるのではないかという発言をしているが、その発言からすると年内の合意は難しいように思えるがどのようにお考えか。

(甘利大臣)

3～4か月以内に首脳が集まる機会があるだろうという表現だったと思う。かなり慎重な表現をしている。基本的要素合意とか、基本的な要素について方向性が出るとか、あるいは大筋の合意ができるかというのは段階が違うと思う。あとは事務的な作業だけすればいいということにするには確かに日数はかなり厳しくなると思う。ただ、ロブ豪貿易・投資大臣の言う基本的な要素の合意というのは、年内にある程度の収斂を見るための努力がこれからもなされるであろうが、一つの障害で多くの項目が止まるということもあるので何とも言えない。少なくとも日米が進まないから他は協議をしても意味がないという見方は完全に取り除かれている。

(記者)

今の関連の質問で、年内の基本的な要素の合意については可能性があるとのことだが、そのためには首脳会議を開く必要があると考えるか、それとも閣僚会合の場でできるとお考えか。

(甘利大臣)

もともと基本的要素の合意なるものの正確な定義がないので、少なくともロブ豪貿易・投資大臣はそれを目指したいと仰っていて、会合の最後のときにそれができたという表現はしなかったので、当面は目指していくのだと思う。ただ、そこに首脳会合が必要か必要でないかということは基本的な要素合意なるものの、これぞという各国の閣僚間のコンセンサスというものができたとはいえず、中身の定義がないので何とも言えない。掲げたものが閣僚会合の最後にこれができたという形で発表がなかった。しかし前進はあったので、それに向けて努力をされるということだと思う。

(以上)